

を、次半句とのズラシ相関をとることで定量的に検討した。その結果、冬季には波の定在が、春季・秋季には波の東進が見られ、夏季は相関が低いという、季節的特徴が得られた。

しかし、傾圧不安定波の季節変動を捉えるにあ

たって、本論文で採用した空間的、時間的スケールが最適かどうかの検討は残されている。また、最終目標としては、傾圧不安定波という指標を用いてその経年変化を捉え、北半球大気で何が起きているのかを把握したい。

地域情報サイトから見る「ネットコミュニティ」と「地域社会」 —港北ニュータウンを事例に—

古澤 暁子

インターネットは、いつ、どこでも簡単にコミュニケーションをとることができ、地理的(距離)障壁を超えることができる面が注目を浴びている。一方、港北ニュータウンなどでは、限られた地域の中で、インターネットを介した交流がみられる。本来、対面で行なわれていた地域交流が、なぜ、地理的障壁を取り払うインターネット上で再構築されているのだろうか。本稿では、港北NTを事例に、「地域情報サイト」から「ネットコミュニティ(ネット上の交流)」と「地域社会」の新たな関係について検証した。

まず、港北NTにおける地域情報サイトを概観した。そして、「横浜都築・港北NTML」と「緑の小径」の2つを取り上げ、過去ログの分析や管理者への聞き取りを行い、「横浜都築・港北NTML」ではネット上での「情報交換」の姿を、「緑の小径」では「半径10kmの近所付き合い」を検証した。これらに加えて、地域情報サイト利用者への意識を探

るために、アンケート調査と簡単な聞き取りを行った。

調査を通じて、「地縁の欠如や多忙」といった背景の中で、「地域」における「ネットコミュニティ」の役割の重要性を知ることができた。また、地域住民の多くは、「地域」における「ネットコミュニティ」は、実際の世界とは別世界ではなく、地域社会でのコミュニティの1形態として捉えていた。「ネットコミュニティ」が「地域」と取って融合することにより、「ネットコミュニティ」と「社会」の独特の関係が生じている。特に、「ネットコミュニティ」と「地域社会」との間にあるフィードバック効果は、両者が相互に影響を与えつつ進展していく可能性を秘めていた。また、「地域」における「ネットコミュニティ」の様々な姿を探った結果、インターネットによってグローバル化が進む中で、皮肉にも「地域」という位置付けがより重要になっていくのではないかと推測される。

グローバリゼーション下の新しいエスニック・メディア —首都圏におけるフリーペーパーの実態調査から—

本田 美穂子

(フル・ペーパーを別に掲載した)

路面電車とまちづくり —万葉線を事例に—

山田 知以子

日本の路面電車は、道路交通の邪魔物として昭和40年代をピークにつぎつぎに廃止されていったが、近年、本格的に見直され始めている。

本稿では、富山県西部の小都市、高岡市と新湊市を南北に結ぶ、路面電車「万葉線」を事例として取り上げた。万葉線は現在、民間経営から第三

セクター事業として、新たに生まれ変わるべく準備段階にあるが、近年の第3セクター事業の危機的状況を考慮すると、万葉線の今後の経営状況が危ぶまれる。また、富山県は、まさに自動車依存社会であり、公共交通機関の重要性は低い。このような状況のもとで、万葉線が「市民の足」とな